

事業コード	H24-建-新-05		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2485
路線名等	(主)大曲大森羽後線		担当課長名	阿部喜巳
箇所名	羽後町安良町		担当者名	佐藤秀治
総合計画との関連	政策コード	17	政策名	新たな生活圏の創造
	施策コード	04	施策名	地域内交通の整備
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県道の整備推進

1. 事業の概要

事業期間	H25 ~ H31 (7年)		総事業費	12.1億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	延長 L=3,000m 幅員 W=6.0(8.5)m (1.25-3.0-3.0-1.25) 一部歩道有り						
事業の立案に至る背景	本路線は主に雄物川左岸の集落に沿う形で大仙市から羽後町に至る県南地域の主要な県道であり、沿線には横手市大森地域局や雄物川町の温泉施設等がある。 当計画区間は家屋が連担しているとともに、ライスセンターや農協、明成小学校があるが、最小幅員はW=5.0mと狭隘で、屈曲部も相当あり、歩道も一部しか無い状況であり、死亡事故を含む交通事故も過去10年間で22件となっている。						
事業目的	バイパス整備による安全で円滑な交通の確保 ・線形改良及び幅員の確保による車両等通行の安全性等の向上 ・通過交通の排除による沿線住民と通学路指定区間である現道の歩行者、自転車の安全の確保						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度以降
	事業費		1,208,000	30,000	60,000	206,000	912,000
	経費内訳	工事費	768,000			5,000	763,000
		用補費	340,000			200,000	140,000
		その他	100,000	30,000	60,000	1,000	9,000
	財源内訳	国庫補助	845,600	21,000	42,000	144,200	638,400
		県 債	326,100	8,100	16,200	43,300	258,500
その他							
一般財源		36,300	900	1,800	18,500	15,100	
事業内容			路線測量、各種調査、詳細設計	用地測量、物件調査	用地補償、本工事	用地補償、本工事	
調査経緯	平成23年度 道路概略設計 平成23年度~平成24年度 道路予備設						
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プランの「社会資本整備」を推進する事業						
関連プロジェクト等	(主)大曲大森羽後線の鶴ノ巣工区の道路改良工事(H18~H24)						
事業を取り巻く情勢の変化	地元の総意としての要望あり						
事業効率把握の手法	指標名	県道改良率					
	指標式	改良済延長/路線実延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有	無	
	目標値 a	70 %		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	72 %					
	達成率 b/a	102 %		把握の時期	平成24年 4月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	集落内は最小幅員が5.0mと狭く、屈曲部が連続しており、家屋も連担しており、交通事故も過去10年間で22件あり、道路改良による安全性の確保が必要である。	34点
緊 急 性	地元からの要望も継続しており、平成21年度には屈曲部で死亡事故も発生している。計画区間北側の鶴ノ巣工区の道路改良が平成24年度に完了し、区間前後の走行性等が向上することから、走行速度が上がり、区間内の屈曲部や狭隘部の危険性がより高くなることから早急な対応が必要である。 地域防災計画上の救急告示医療機関である雄勝中央病院へのアクセス性が向上する。	4点
有 効 性	計画区間の集落から羽後町役場、羽後中学校、商業施設へのアクセス性が向上する。通過交通がバイパスに流れることにより、現道の交通量が大幅に減少し、歩行者や自転車が安全に通行できるようになる。	15点
効 率 性	事業の費用便益は2.9であり、効率性は高い。 ・総事業費の現在価値 17.0億円 ・総便益の現在価値 50.6億円 計画交通量は3,000台/日である。	15点
熟 度	羽後町や事業推進協議会から早期道路改良の要望書が提出されている。	15点
判 定	ランク ()	83点
	ランク であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 評価結果から事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	当該路線は、大仙市から羽後町に至る県南地域の主要な県道となっている。また当該計画区間には、家屋が連担しているほか、ライスセンターや農協、小学校もあるが、幅員が狭隘なほか、屈曲部も相当あるため、交通の安全性の確保の観点から、必要性及び緊急性は高く、事業実施という1次評価は妥当と判断される。

4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、通勤、通学等の生活道路として重要な道路であるが、きついカーブが存在するほか、幅員が狭小で歩道も一部しかない状況であり、事業実施の優先度は高い。さらに不必要と考えられる歩道の設置をせず、補償費が過大となる現道の拡幅を避け、バイパスを採用した上で補償物件の少ないルートを採択するなどコスト縮減の観点からも妥当である。

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード (H24-建-新-05)

適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (羽後町安良町)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	25	25	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	20		
	・最小半径 < 100m	1箇所	15		
	・最急勾配 > 5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし	5件該当	15		
	道路環境上の欠陥該当項目	4件該当	12		
	・現道の混雑度 1.0	3件該当	9		
	・現道の旅行速度 30km/h	2件該当	6		
	・現道の事故率 50件	1件該当	3		
・通学路指定で歩道なし	該当項目なし	0			
・重大交通事故が発生					
計			40	34	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト				
	・地域振興プロジェクト				
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3		
		位置づけなし	0		
交通量	増加している	3			
	増加していない	0			
特有の課題の有無	老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	あり	5	0	
		なし	0		
	計		15		
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	5	5	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	5		
		該当しない	0		
地域防災計画上重要な道路	該当する	5			
	該当しない	0			
計			15	15	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比 (B / C)	1.0以上	8	8	
		0.5以上1.0未満	5		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	7		
	500台/日以上1,000台日/未満	5			
	300台/日以上500台日/未満	3			
	300台/日未満	0			
計			15	15	
熟度	地元の状況				
	地元ニーズ	文書要望あり	5	5	
		口頭要望あり	3		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	地元の内諾	5		
	用地反対	0			
地元への方針説明	あり	5	5		
	なし	0			
計			15	15	
合計			100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		